

令和元年8月16日

南の風 314

南部支部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

2on2のピック&ダイブについてです。

スクリーナーの正しいピックの仕方やユーザーの攻め方（スクリーンを利用するか、使わず逆にドライブするか）がこのプレイのポイントです。

正しいピック（サイドスクリーン）の掛け方は、

- ① 止まっているボールマンディフェンスに、スクリーナーがスクリーンを掛けて止まること。
- ② ①の時に両足が床についていること。
- ③ なお且つ、スクリーナー自身のシリンダーを逸脱しないこと。（足を広げすぎたり、肘を張りすぎたりしないこと。）
- ④ 相手の動きに合わせて、動いてスクリーン（Moving Pick）をかけないこと。

以上です。

ユーザーは自分のディフェンスとスクリーナーのディフェンスの状態を見て、どう攻めるか判断します。スクリーナーがピック来た時のプレイのオプションは次の通りです。（私のチームでやっているプレイ）

- ① ボールマンディフェンスがスクリーンを気にしたり、かわそうとしたりすればスクリーナーと逆側へドライブします。
- ② ユーザーはスクリーナーのディフェンスがショーハード気味に来れば、ステップバックしてスペースをつくってダイブするスクリーナーにパスです。
- ③ スクリーナーのディフェンスがアイス（下がって）で守れば、ユーザーはスクリーンを使ってドライブでペイントに進みます。他の味方との合わせも考えます。ユーザーのディフェンスがファイトオーバーしたりスライドしたりしてユーザーに付けば、スクリーナーはポップして上がりシュートが打てます。

他にもスクリーンに絡むプレイはありますが、ミニバスでは上記のものが基本形になります。

スクリーンプレイは合理的なプレイですから、ユーザーとスクリーナーの合わせのタイミングが成功のカギになります。ミニバスでよくあるミスは、ダイブするプレイヤーへのユーザーのパスミスです。スクリーナーのディフェンスが、スイッチやショーハードで付いてきた時に、安易にスクリーナーにパスしようとして、出所をチェックされるケースです。状況に応じたパスの種類やタイミングを練習しなければなりません。

付け加えるならば、ピック&ダイブが行われている逆サイドの3人の味方は、プレイの邪魔にならないようにすることと、自分たちに付いているディフェンスが、ピック&ダイブのヘルプに行かせないようにスペースを空けておくことです。

スクリーンプレイの練習は、スクリーン正しい掛け方がある程度できたら5on5の中でやることをお勧めします。ディフェンスはダミーかディシジョンメイクで付かせるとよいです。

次号では5on5のオフェンスを取り上げます。